

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		159,312	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		159,312

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス 総排出量	157,566	t-CO ₂	155,991	t-CO ₂	158,498	t-CO ₂	156,765	t-CO ₂	159,312	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			1.0	%	▲ 0.6	%	0.5	%	▲ 1.1	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの 排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

社用車に関しては、燃費の悪い車両から省エネ車両に変えていることもあり、ガソリン使用料は微減した。また、2024年度は台風・低気圧の影響で多数の欠航が発生し、省エネ航行に努めることが難しい日も多かったため、燃料消費量は増加となった。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
<p><海上部門> 船舶における取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・潮流を利用して航行する ・安全最優先とするが、可能な限り航海距離を短縮するように航行する ・復元性を保ちつつ、可能な限り船体重量を減らして航行する ・照明利用、冷暖房温度を適正化する 	<p>冷房温度28℃、暖房温度20℃を徹底する。</p>	<p>安全運航が最優先のため、海象状況によっては省エネ航行が難しい日もあったが、可能な限り省エネ航行に努めた。</p>
<p><陸上部門> 省エネルギー・省資源の推進／冷暖房</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通年ノーネクタイを実施する ・クールビズ、ウォームビズを実施する ・冷暖房温度を適正化する ・使用していない部屋及び退社時の空調停止を徹底する 	<p>冷房温度28℃、暖房温度20℃を徹底する。</p>	<p>通年ノーネクタイを実施した。冷暖房温度の適正化を図り、使用していない会議室の空調OFF・退社時の空調OFFを徹底した。</p>
<p><陸上部門> 省エネルギー・省資源の推進／照明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用していない部屋及び昼食時や残業時には、不必要な照明を消す 	<p>左記、通年実施。</p>	<p>使用していない会議室の消灯、昼食時の消灯、退社時の消灯を徹底した。</p>
<p><陸上部門> 省エネルギー・省資源の推進／OA機器</p>	<p>パソコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食時や離席時にはスリープ状態にする ・退社時、外出時には可能な限りシャットダウンする コピー機及びプリンター ・退社時には主電源を消す 	<p>左記、通年実施。</p>	<p>パソコンの電源OFFを実施し、昼食時・離席時のスリープ状態になるよう設定した。コピー機・プリンターは、省エネモードに設定した。</p>
<p><陸上部門> 自動車利用における取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利用を促進する ・車両ごとに毎月の燃費を管理する ・急発進、急加速、急ブレーキを避けたエコドライブを実施する ・年式が古く燃費の悪い車両は、随時省エネ車両へ入れ替える 	<p>社有車リース契約満期の時点で、随時、省エネ車両へ切り替える。</p>	<p>毎月、燃費管理を行った。またエコドライブを実施した。年式の古い車の入れ替えを行った。</p>

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で両面印刷・裏紙利用を促進 ・決裁書・契約書を電子化し、紙の消費量削減を実施中 ・従業員への周知は、社内LANを活用 ・可能な限り書類はPDF化し、データでのやり取りに変更 ・事務用品はグリーンラベル商品を積極的に使用 ・モーダルシフトを推進し、当社戦による輸送に切り替えていただくよう営業活動中

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>部署にもよるが、できる限り早めの退社に努めた</p>
